

男女共同参画学協会連絡会

第9期幹事学会 宇宙生物科学会・生態工学会
(2010.10.8-2011.10)

委員長 跡見順子 (東大アイソトープ総合センター)

副委員長：富田一横谷香織 (筑波大) ら

事務局：清水美穂 (東大院情報理工) ら

男女共同参画学協会連絡会

- 2002年10月に、12学協会の参加の下、発足。
- 参加学協会：68
(正式加盟:42、オブザーバ：26学会)
- 加盟学協会会員総数:
約 41 万人(女性会員:約 2 万人)
- 目的
自然科学系分野の男女共同参画を進めるため発足。推進活動、情報交換、データ整備などを行う。

連絡会ホームページより

- TOP

本連絡会について

- 概要

- 沿革

- 組織

- 規約など

- 入会案内

- 案内ポスター

- お問い合わせ

本連絡会の活動

- 主催の催し

- 共催・協賛・後援等催し

- アンケート・調査

- 提言

- 要望

- 資料

- English Papers

その他

- 加盟学会などで展示された資料

- サイトマップ

- 関連リンク

- 研究等支援情報

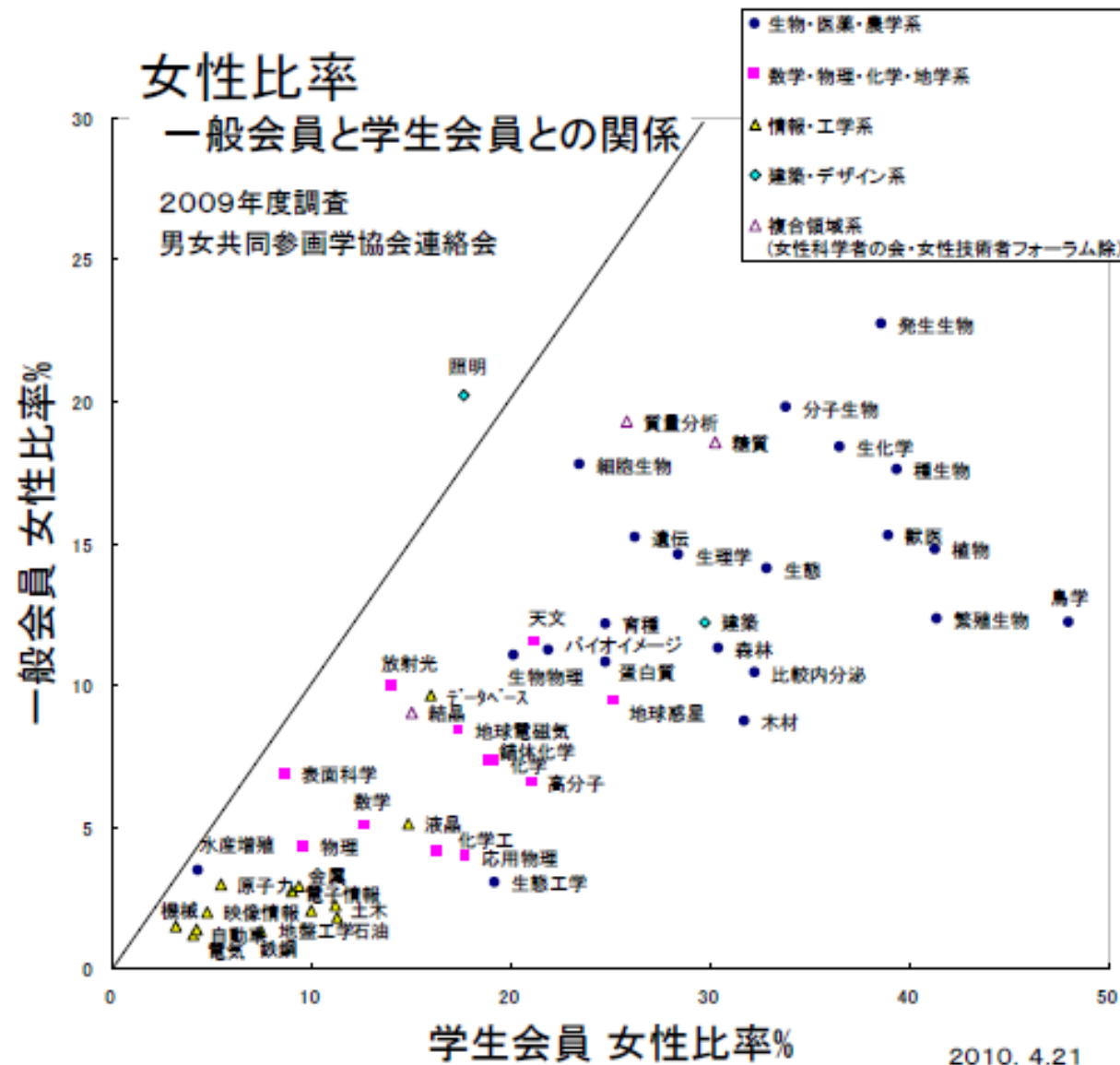
- 求人情報

- 著作権に(PDF 532KB) ついて

アンケート・調査

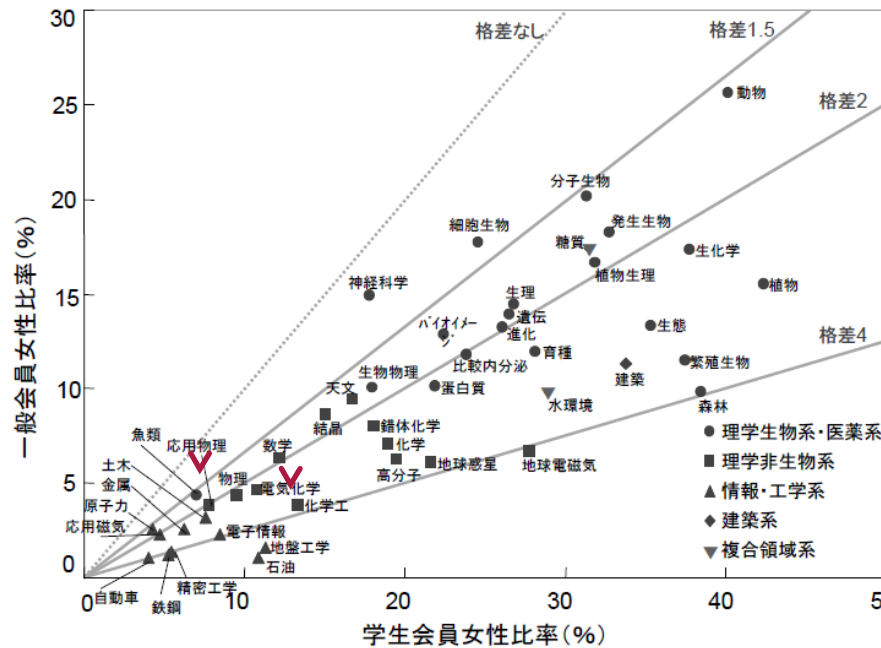
- 学会における女性比率：会員、役員など
- 学会における男女共同参画活動の実施について（例えば、シンポジウムの実施、男女共同参画委員会、年会などの保育室運営）
- 大規模アンケート（文部科学省委託事業）
 - 平成15 年度：大規模調査研究「21 世紀の多様化する科学技術研究者の理想像―男女共同参画推進のために―」
 - 平成19 年度：大規模調査研究「科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査」（14,100件の回答）

一般会員と学生会員の女性比率

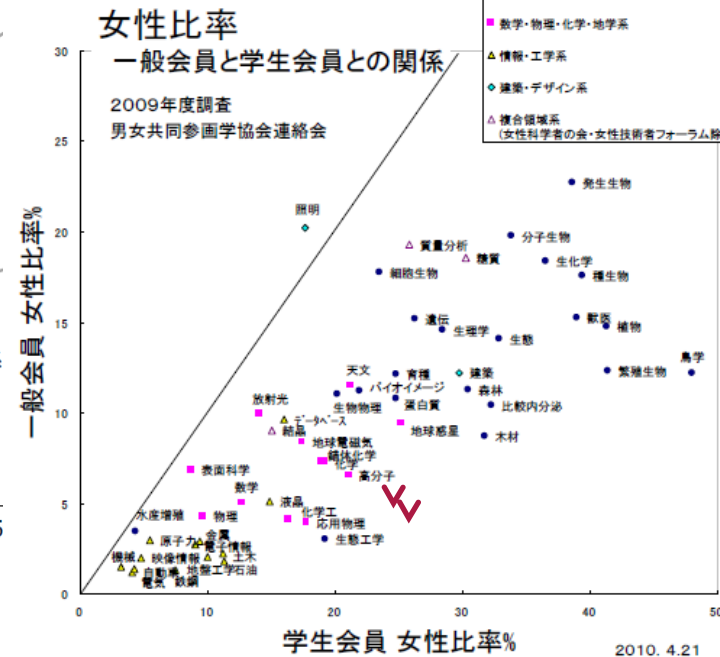


一般会員と学生会員の女性比率

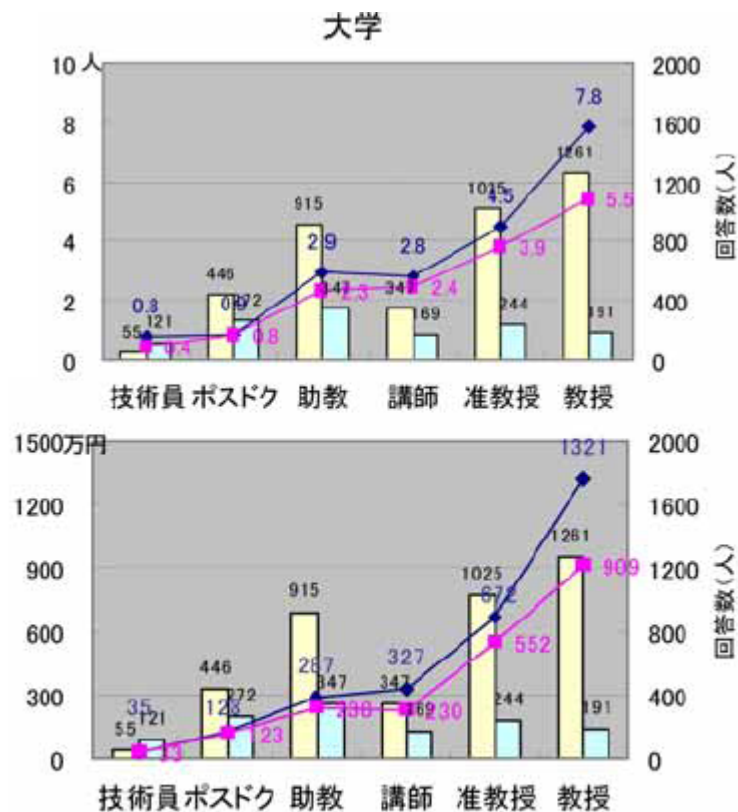
2007年



2009年



アンケート：



上: 図 2.9 役職別の部下数

下: 図 2.10 役職別の研究開発費

同じ役職にあっても、部下の数や研究開発費の点で女性のほうが男性より少なく、役職が高いほど男女差が大きい。

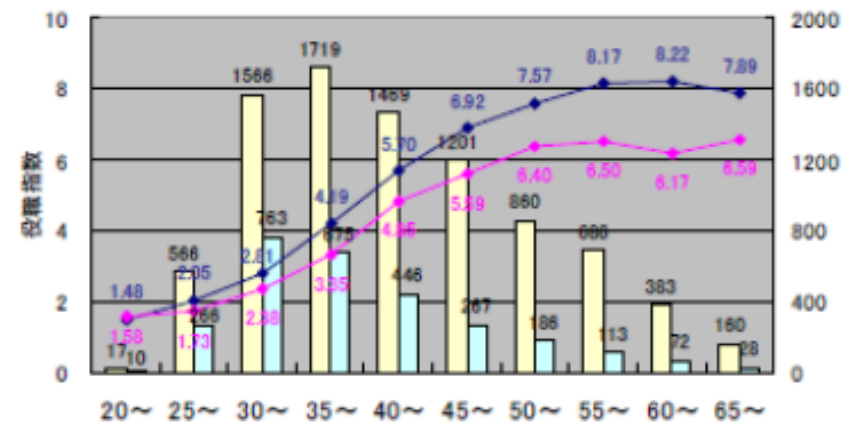


図 2.2 役職指数の年齢推移

年齢があがるとともに男女の役職の差が開き、特に40代後半からその差が広がる。
(この回答者集団では、学位取得率は40代後半以上では女性のほうが高い。)

(出典) 男女共同参画学協会連絡会「科学技術系専門職における男女共同参画実態大規模調査」(平成20年7月)

アンケート（続）

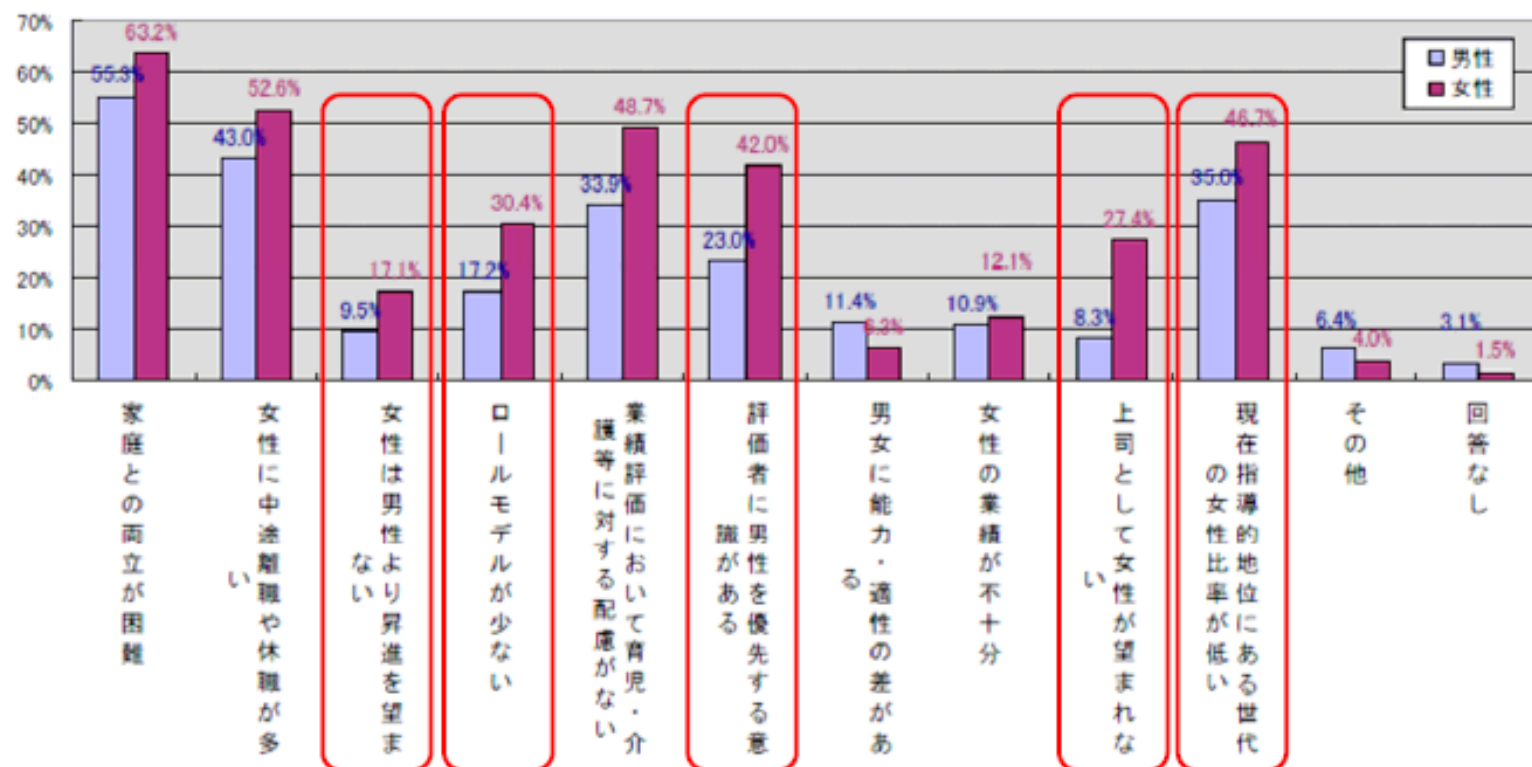


図 1.85 指導的地位の女性比率が低い理由

(出典) 男女共同参画学協会連絡会「科学技術系専門職における男女共同参画実態大規模調査」(平成20年7月)

女性リーダーを育てるには、家庭との両立を支援するほか、女性側の役割意識を変えていく支援をする必要がある。

アンケート（続）

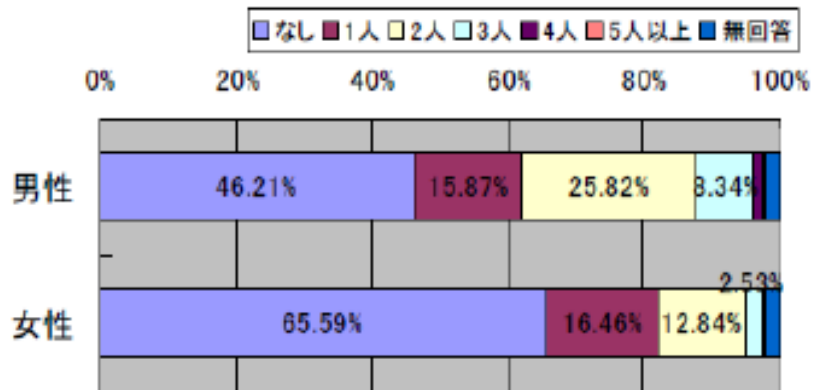


図 1.66 子どもの人数

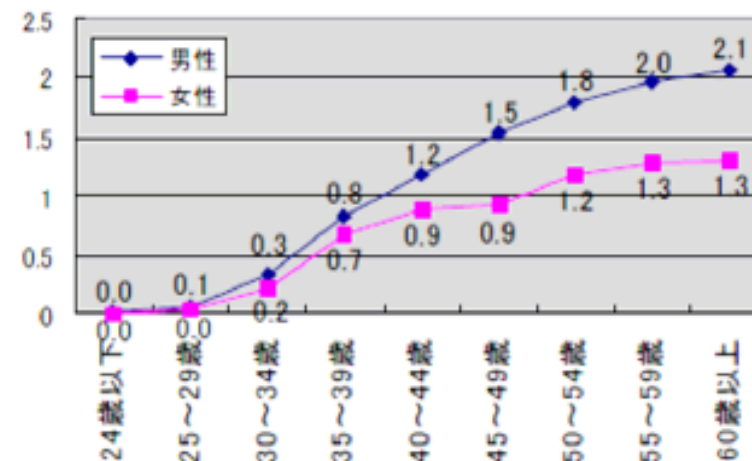


図 1.67 年代別子どもの人数

(出典) 男女共同参画学協会連絡会「科学技術系専門職における
男女共同参画実態大規模調査」(平成20年7月)

女性科学技術者の約3分の2は子どもなし。女性科学技術者の持つ子どもの平均人数は1.3人で頭打ち。40代で1人に達しておらず、少子化が明らかである。

アンケート

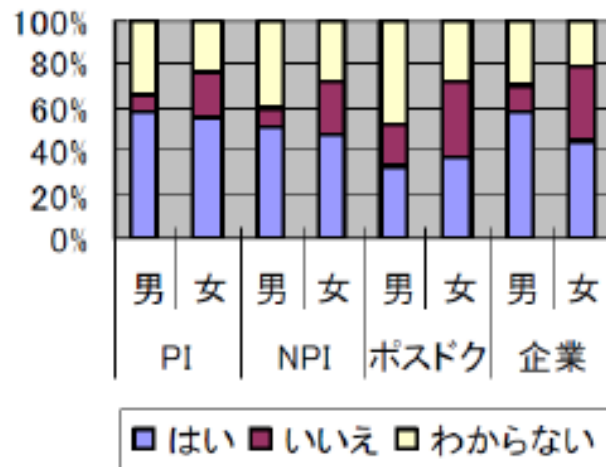


図 4.18 任期付き職の育児休業取得可否（職域別・男女別）

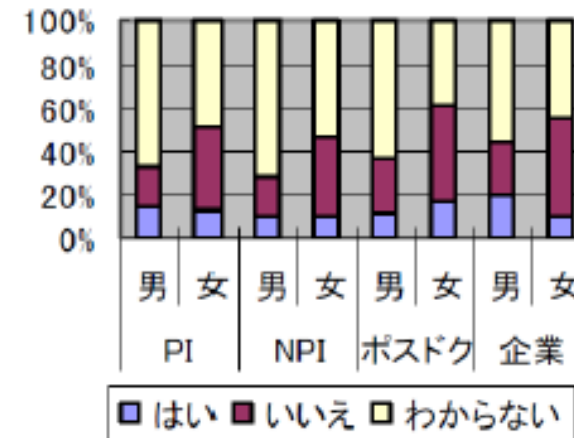


図 4.19 任期付き職の育児休業による任期延長の可否（職域別・男女別）

（出典）男女共同参画学協会連絡会「科学技術系専門職における男女共同参画実態大規模調査」（平成20年7月）

ポスドク等任期付き職は育児休業をとりにくい環境にある。
加えて、育児休業やそれに伴う任期延長の可否を知らない例が多い。
(特に男性)

提言・要望例

2009年12月 第4期科学技術基本計画および
第3次男女共同参画基本計画への要望

2010年 8月
「科学技術分野での男女共同参画の推進に向けての要望」



平成22年12月17日に閣議決定された第3次男女共同参画基本計画に、はじめて理系分野の項目
「第12分野 科学技術・学術分野における男女共同参画」
が明記されるに至ったことに貢献

今期事業計画と進捗状況

- 第1回運営委員会を東大アイソトープ総合センターで開催（H23年1月21日）
 - ・ 今期は会議資料をペーパーレス化→運営費の削減
 - ・ 来期の大型アンケート実施に向け大型アンケートWGを立ち上げることに決定。9期（今期）中に発足させこの準備を行い、10期で実施し、11期で活用する。
 - ・ 10月31日に筑波大学でシンポジウムを開催することに決定。
- 第2回運営委員会開催（H23年4月25日～5月2日）
 - ・ 当初3月に開催予定だったが震災のため1ヵ月遅れでメール会議となった。
- 第3回運営委員会はH23年7月5日に開催予定

ワーキンググループ

既存WG

- 「学会を含むリーダーシップ活動の機会均等」
- 「女性リーダー育成・若手育成」
- 「自分自身のシステムを知る－科学が動かす男女共同参画を知る」
- 「アンケート再解析」
- 「外国における男女共同参画から学ぶ」

設置が決まっている新規WG

- 「大規模アンケート調査準備」～時代に応じた新規項目も追加するが、評判が高い定点観察も続ける。データの利用価値は高く、文科省等からの問い合わせなどもある。
- （前回のアンケート調査をメインにまとめられた豊島先生および跡見・清水、学会としては原子力学会が参加を表明。来期の幹事学会である生理学会も加わる予定）

新規WG＜予定＞

「現代社会における科学者の役割と男女共同参画－女性科学者からの問題提起」～ヒューマンサステナビリティの原点
復帰戦略によるアクションプランの実効化に向けて～

- ・ 科学的知識を生かしつつ、女性をもつ共感性（他者への思いやり）・身体性（優れた身体感覚）を発揮できる社会の実現

例：あきらめない、「いのち」をつなぐための咄嗟の判断。津波に飲まれて水中に沈んでしまったとき、水面に出るために身体の力をぬいたら浮くことができたという証言。

- ・ 原発等、地球環境レベルで「いのち」を考えなければならない現場、**高齢社会への対策等への女性科学者の積極的な登用**

- ・ 定年制の撤廃

女性はとくに長寿命であり、子育てや親の介護を通して社会性を増していくので人材として活用しないともったいない。**女性の長寿命の元気モデルが必須。**

厚労省ではすでに定年の引上げや定年の定め廃止を実施した事業主へ給付金を出して推奨→日本のサステナビリティ（経済）にとっても定年制撤廃は重要。

- ・ 非常勤雇用者に対する支援制約問題・雇用側の理解不足の解消

たびたび新聞でも話題になっている切実な問題。とくに子育て世代では周囲のサポートが必要。非常勤だとこどもの延長保育が認められなかったり、入所させられなかったりする。研究室滞在時間がネックになるライフサイエンス系では深刻な問題。財団等による支援適用が勤務時間週20時間以上などに限定。

その他

- 科学技術理解増進

女子高生夏の学校

女子高生春の学校

その他多くの活動の後援

2010 連絡会シンポジウム(10月7日理研) 男女共同参画と社会

